

1

議席番号 9 番

増田 剛士 議員

開始予定時間

9月15日 午前9時

【「シーガーデンシティ構想推進計画」沿岸地域における新たな賑わいの創出について】

町は、平成28年3月からシーガーデンシティ構想の見える化に向け本格的に始動し、令和元年12月に「シーガーデンシティ構想推進計画・シーガーデン（川尻海岸）整備編」を公表した。

シーガーデンシティ構想は、「津波防災まちづくり」と「賑わいづくり」を一体的に進め、「豊かで勢いのあるまち」へ更に「心を魅了する要素」を加えた新たな吉田町を創り出したいという町長の強い意志が反映されたものであると認識している。

本年5月14日には駿河海岸防潮堤川尻工区及び河川防災ステーションの完成式典を行い、津波防災まちづくり事業においては一つの区切りと成ったと感じている。

他方、「賑わいづくり」に関しては、これからの取組としてシーガーデンシティ構想推進計画に沿った事業展開が進められる模様である。

そこで、沿岸地域における新たな賑わいの創出について以下質問する。

(1) シーガーデンのゾーニング計画における3つのゾーンについて

① 「親水・交流ゾーン」については、吉田漁港多目的広場利活用検討委員会において調査研究がされていると理解しているが、その具体的な内容は。

② 「海辺のプロムナードゾーン」において、サイクリングやジョギングなどを楽しむことが示されているが、幅6メートルの防潮堤天端をどのように整備するのか。

③ 「レジャーとスポーツゾーン」におけるアウトドア体験施設等の整備、多目的グラウンド等の整備とは、どのようなものを想定しているのか。

(2) この推進計画において、「海の駅」や「みなとオアシス」申請を視野に入れた考えはあるのか。**(3) 吉田漁港多目的広場利活用検討委員会と吉田町シーガーデンシティ構想推進委員会の今後の役割は。****(4) 沿岸地域における新たな賑わいの創出を考えたとき、行政として整備するものと民間事業者が事業として整備していくものとの双方が必要であると考えるが、町の見解は。**

2

議席番号 12 番

平野 積 議員

開始予定時間

9月15日 午前10時

【自治振興について】

吉田町における自治会への加入率は、過去8年間で約12%減少（平成26年～令和3年、総務課データ）しています。自治会は任意団体であり、強制加入出来ないものと認識していますが、約65%の加入率では、町の方針、政策、防災に関する情報等が約1/3の住民には伝わらないことになってしまいます。

また、自治会への加入率低下や担い手不足は全国的にも大きな問題となっており、その要因として、自治会の役の重さ、負担の多さが挙げられています。その解消のために、行政からの依頼事項の負担を減らしていく必要があるとされています。

一方、吉田町自治振興費補助金交付要綱の第1条には、「町長は、相互扶助の精神に基づく地域の連携を増進し、良好な地域社会の維持及び形成に資するため、住吉区自治会、川尻区自治会、片岡区自治会、北区自治会及び自治会連合会に対し、予算の範囲内において補助金を交付する」と記載されています。そして、補助金の種類として、自治振興費補助金、自治会運営費補助金、地域活性化推進事業費補助金、町内会運営費補助金、町内会活動費補助金が挙げられていますが、過去その増額はほとんどありません。

そこで、町が自治会活動への更なる支援を行うことによる、暮らしやすい地域社会の実現、地域コミュニティの強化、地域住民による防災体制の確立等の充実のために、以下の点について質問します。

- (1) 町は自治会にどのような期待をしているか。
- (2) 町は自治会加入のメリット・デメリットをどのように考えているか。
- (3) 町は自治会への加入率が年々低下している原因をどのように分析しているか。また、その対策を考えているか。
- (4) 町が自治会に依頼している内容の見直しを考えているか。
- (5) 町が自治振興費補助金等自治会への補助金を増額しない理由は。

3

議席番号 8 番

山内 均 議員

開始予定時間

9月15日 午前11時

【神戸川冠水対策及び排水系統の見直しについて】

近年、日本各地で豪雨による河川の氾濫や冠水が頻繁に起き、建物等に被害が発生している。吉田町の北区地区では、能満寺北側を流れる神戸川が頻繁に冠水し、床下浸水等建物への被害が常態化している。

資料①は、2021年10月29日の雨によって神戸川が冠水した時の周辺の状況と、住宅に発生した床下浸水の写真である。

また、北区は都市化が進み田んぼが宅地化され、遊水池が減少して雨水等の多くが神戸川へ流れ、流量は増大している。大雨時には湯日川との合流地点では、神戸川へ逆流が発生し冠水の要因にもなっている。

冠水に対する地域からの要望に対して町からは、「現在、神戸川を含む湯日川流域の調査・分析を行うための治水対策検討業務を実施しており、来年度には、具体的な対策案において排水系統の見直しも検討していく予定でございます」との、丁寧な回答をいただいた。

地元の人たちは、これからの町の計画に大いに期待しているところである。

一方、排水経路について、神戸川の水を直接水路に流すことによって、農業用水に利用することも合理的ではないかと考える。

そこで、以下の点について、質問をします。

- (1) 神戸川の治水対策は、冠水による被害の解消が優先課題となると思うが、町の基本的な考えは。
- (2) 実施に向けた今後のスケジュールは。
- (3) 排水系統の見直しとは。
- (4) 過去の雨量調査から、冠水に危険な雨量数値の設定はしているか。
- (5) 冠水場所は今とは違い、数十年前は湯日川出口近辺だった。検討には地元を知る人や被災者等の意見を反映させていただきたいが考えは。
- (6) 県道住吉金谷線と町道富士見東名線の道路面が神戸川より高くなり、冠水に影響していると思う。県との協議は行われるのか。